

避難について

気象情報などを確認し、万一浸水した場合に備えて、以下のような避難行動をとりましょう。

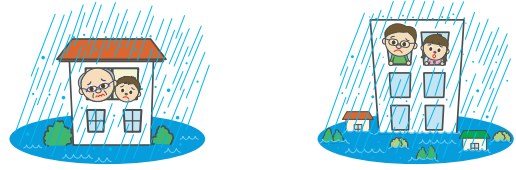
大雨が降ってきたら

河川の堤防の決壊等による外水はん濫のおそれがある場合には、避難情報に従いましょう
避難時は、川や橋には絶対に近づかないでください。



建物の2階以上へ避難するなど安全な場所へ一時的に避難しましょう

自分の家族や住まいだけではなく、近隣の方々にも目を向けましょう。特に高齢者世帯など、災害時に援助が必要な方には、ふだんからの気配りが大切です。



マンホールの異常を発見したら
大雨によりマンホールのふたが外れることがあります。発見した時は危険ですから近寄らずに下水道維持課へ連絡をお願いします。お問い合わせ先はP.18へ

大量の水を排水するのは控えましょう
大雨の時に大量の水を排水すると浸水する危険性が高まりますので排水するのは控えましょう。



避難情報の種類と取るべき行動

低

避難準備情報

避難しなくてはならない状況になる可能性があるため、その準備を促す発表です。

- いつでも避難できるように、避難の準備をしましょう。
- ラジオやテレビの放送、市役所などからの広報に注意しましょう。
- お年寄りや子ども、身体の不自由な人は、早めに避難しましょう。

緊急性

避難勧告

市民に避難の開始を勧める発令です。

- お互いに助け合って、避難行動を始めましょう。
- 自動車での避難はできるだけやめましょう。

高

避難指示

被害の危険が切迫した時に発せられるもので「勧告」より拘束力が強くなります。

- 直ちに避難しましょう。

雨の強さチェック

避難時の心構えとして雨の様子をチェックすることが大切です。日ごろから雨が降り出したら、どの程度の雨なのか観察してみてください。

やや強い雨

(1時間に10~20mmの雨)



雨の音がよく聞こえ、地面に水たまりができる場所もあります。

強い雨

(1時間に20~30mmの雨)



土砂降りの雨。傘をさしていても濡れてしまうほどの雨です。

激しい雨

(1時間に30~50mmの雨)



バケツをひっくりかえしたような激しい雨。河川の水のあふれ、下水のあふれ、崖がずれがおこりやすくなります。

非常に激しい雨

(1時間に50~80mmの雨)



滝のように降り、あたりが水しぶきで白っぽくなります。道路が冠水し、水害発生の危険性が高まります。

猛烈な雨

(1時間に80mm以上の雨)



息苦しくなるような圧迫感があり、大規模な浸水が発生する恐れがあります。場合によっては河川のはん濫のおそれもあります。